

基礎ゼミ (グループ3) 「第3章 文章を読む」

2007/5/22

**1. 役割分担**

進行者:

発表者:

プリント責任者:

討議会場: C棟1階、A棟1階の端

討議日時: ①4/17 ②5/8 ③5/15 ④5/18

**2. 教科書のまとめ**

・大学の授業では学術的な文献を自分で読む

学術的な文献: 論拠を挙げて、ある主張を論証する文書

※ATTENTION!

論説や論文では書いた人のことを「作者」ではなく「著者」という

## &lt; 1. 学術的な文章の読解 &gt;

・学術的な文章を読むための工夫…ノートをとれるようになると、学術的な文を読めるようになる (※高校の現国とは違う)

→ノートをつくるには… (第1章)

→読むには…・著者の言いたいことを見つける

・その主張が正しいかどうか、主張を裏付ける論拠が示されているか

< 2. 学術的な文章の特徴①…抽象的な言葉 >

ex.) 「統計的」「規範的」

→いくつもの事例を一般化して考えるために抽象的な言葉は欠かせない

・学術的な文

×特定の事例が描写されている

○一般的に言えることを論じる

・抽象すること = 個別的な特徴を取り払い共通する性質だけをとりだす

< 3. 学術的な文章の特徴②…専門用語 >

ex.) 「労働力市場」「下方硬直性」「需給の調達」

・専門用語の意味は分野の理論によって定義される

< 4. 学術的な文章の特徴③…語の修飾関係 >

・たくさんの主語+述語がでてきて複雑になりがち

< 5. 学術的な文章の特徴④…接続詞 >

・事柄の論理的展開を示すため接続詞が多用される

## &lt; 6. 自分の主張を、明確にし・論証する &gt;

学術的な文章の目的: 著者の主張「論旨」を明確に説明し、論拠を示して、それをもとに論証する

### < 7. 主張の明確化 >

論旨文は、簡潔にできている→詳しい説明が必要

#### 説明するための手段

- ・敷衍：詳しく言い直す
- ・例解：例をあげて説明する
- ・比較：似たような事例と比べる
- ・対比：対立する事例との違いを示す
- ・限定・条件：主張が成り立つ場合を限定する

### < 8. たしかな論拠をあげて、主張を論証する >

まともな学術的な文章であるためには、

- ①たしかな論拠があげられており、
- ②その論拠から、正しく推論すれば、著者の主張が得られるという二つの条件が満たされていなければならない

### < 9. 論拠から、正しく推論する >

#### ◎論拠が真ならば著者の主張も真となる？

→前提から、結論を導き出した推論は正しいということは、前提が真であるときには、結論もまた真となることを意味する。しかし、前提が真なのに結論が偽になるケースもたくさんある。

※推論が正しいかどうかチェック！（参照…第4章「ひとと議論して考える」）

### < 10. パラグラフを見分け、論証をチェックする >

- ・一見難解な学術的な文章を攻略する戦略
- ①段落をも手がかりにして、パラグラフを区別する
- ②論証を進めるうえで、そのパラグラフで、何がなされているのかを推定する

※著者が言いたいことは何かを見つけ、論理的になっているかを見極めるために、パラグラフを要約することが不可欠！

- ・①②は「単語の意味を調べる」・「文全体の意味を考える」作業と同時並行で進む

### < 11. パラグラフを見分けるために >

- ・論文全体で、何について主張したいらしいのか、見当をつける。
- ・段落のはじめと終わりの文にも注意して、パラグラフを区別する。

### < 12. 文献情報をきちんと書きとめる >

- ・文献を利用するには著者名、題名、出版社、出版年が必要！！

### < 13. 読解を楽にするためのテクニック >

- ・重要な長文に線を引くなら、欄外に行と直角に線を引く。
- ・マーカーで塗りつぶさない。